

## 戸隠大明神御本地

奥浄瑠璃。江戸期？

本資料は、「伝承文学研究」 三弥井書店（通号 49）  
[1999.09] ページ 76 ～ 93 掲載の阿部 幹男「戸隠大明神  
御本地」 解題 附・渡辺本翻刻」より。

美濃国の長者の八番目の息子の八郎が、長男を除く六人の兄に財産目当てに攻められ、なんやかやがあるが、孝心厚き八郎は白髭大明神、十羅刹如来、春日明神のおかげで、「八郎殿ハ目出たくらしおハします」となる。ここまで戸隠は無関係だが、「八郎殿ハ目出たくらしおハします」と物語を締めくくった後に、以下の文言が続く。

是ハ神世の物かたり、雨照す御神あまの岩戸に引こもりたまへハ、其時日本をあきらかにせんと神楽をそうし給へば、おもしろやと岩戸を。すこしひらき給ふ。たちからおの神立よりたまへ。とびらを。ひきはなし。しなの国になけ給ふ、則ち戸かくし山と申也、爰にあハれをとゝめしハ六人の兄弟なり、かなたこなたにぞ。てこひして又ハまライハキちふせ。追剥し野山にくらし、さんづの川に待合せ、一マテどに。わつと。さけび

つゝ。むげん地ごくを」(29オ)「ふみわけしハひとへに母の天  
ばつとこそ聞へける、其後八郎殿ハしなのゝ国戸かくし明神  
とあらハれ給ふ、抑越後の国。やひこ明神とかくしの明神と  
ハ、彼の人々の御事也、此人々の御有さま是レ孝行のおしへ  
なりと、貴賤上下押なめてかんせぬものこそなかりける